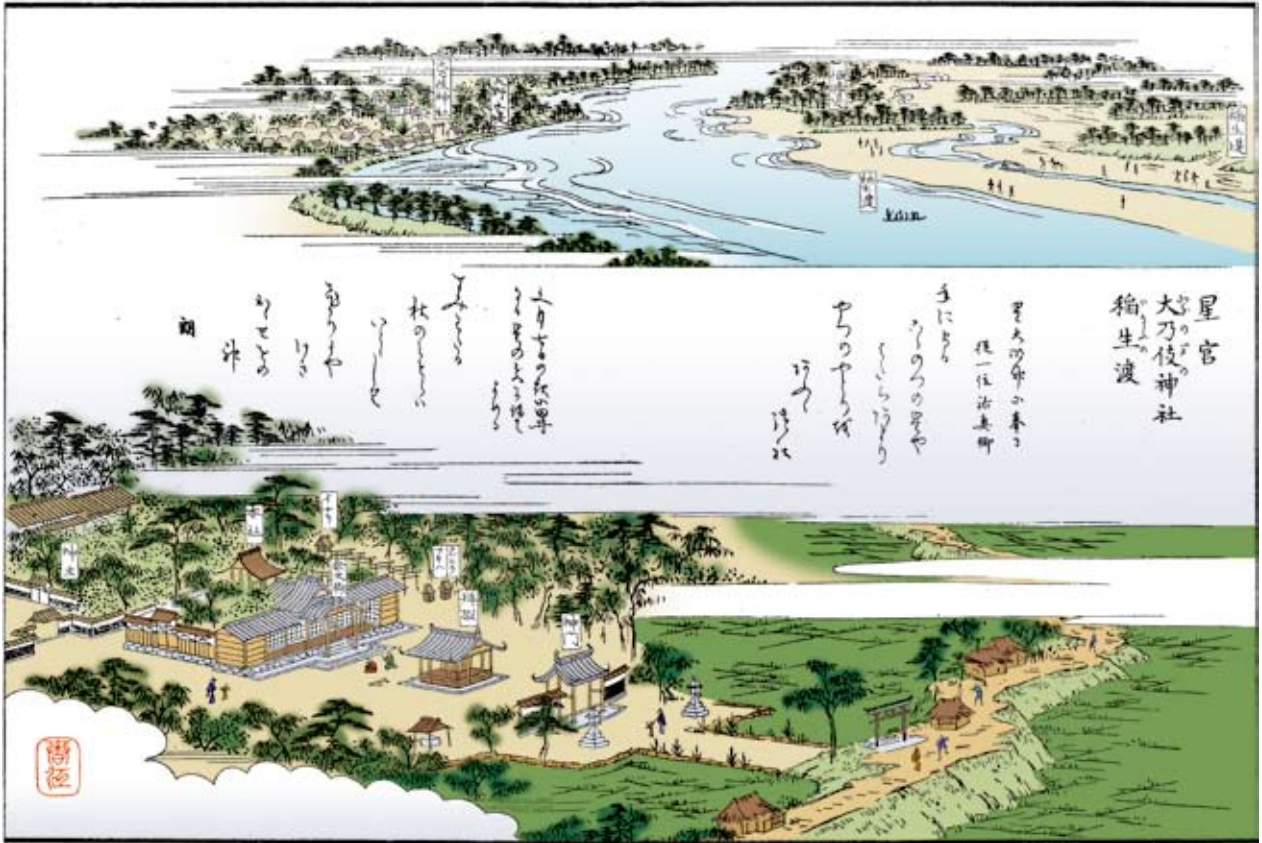


今昔

人、物がゆきかう街道の渡し



※現在地の住所と現況写真の撮影地は、資料に基づき推定したものです。
※左の絵は原本を一部加工、着色しています。

この絵は、尾張名所図会にある星宮、大乃伎神社、稲生渡しを描いたもので、星宮付近の庄内川堤から上流を望んでいるものです。

星宮(星神社)は、大己貴命、天香々背男のほか七夕伝説の牽牛織女を祀っている全国でも珍しい神社です。神社の例祭の1つ七夕祭は、8月7日に行われ特別の由緒ある祭礼で、昔は酒を祭庭にそそいだことから坂庭となり、坂井戸という地名になったといわれています。

七夕祭のときには境内に青笹が立てられ自分で書いた短冊に願い事を書けば願い事がかなうといわれており、若い人の参詣も多く、賑わいを見せています。

大乃伎神社は、庄内川北岸にあり、古来から大野木に位置し社名の由来は、地名に由来しています。しかし、神社の由緒については、安永8年の庄内川の氾濫による大洪水によって記録類は流出してはつきりしていません。

また、星神社及び大乃伎神社周辺は、名古屋市に合併後、組合施行の土地区画整理事業が行われ、現在は静かな住宅地となっています。

稲生渡しは、稲生街道(美濃街道の江川から分岐し、浄心を北に向かい小田井で岩倉街道と合流)の庄内川と矢田川が合流する付近の庄内川の渡しを呼んでいました。

当時、矢田川は歩いて渡り、普段、庄内川は渡し舟を使っていたが、渇水時には仮橋が架けられていました。しかし、増水時には渡し舟も出ないこともあり多くの人たちに不便を与えていたようです。

現在、星宮付近の庄内川堤防から上流を見ても、庄内緑地の樹木が成長し視界を遮り当時をしのぶことは難しくなっています。



庄内川、矢田川の合流点



星宮(星神社)



大乃伎神社

◆関連資料 ※()内はまちづくりライブラリーの請求記号です
「尾張名所図会 後編三」岡田啓／編 愛知県郷土誌資料刊行会(Sc-A)
「西区の歴史」山田寂雀・西岡寿一／著 愛知県資料刊行会(Sc-A)
「西区100年のあゆみ」西区生100周年記念事業実行委員会／編(2B21)
「なごやの古道・街道を歩く」池田誠一／著 風媒社